



Title	業績リスト(1999)
Author(s)	
Citation	大阪大学看護学雑誌. 2000, 6(1), p. 64-72
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/56864
rights	©大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

業績リスト（1999）

基礎看護学講座

1. 論文(原著, 総説, 報告書等)

- 1) Ogasawara, C., Matsuki, M., Egawa, T., Ohno, Y., Masutani, E., Yamamoto, Y., Kume, Y.(1999). Validation of the Defining Characteristics of Body Image Disturbance in Japan, Nursing Diagnosis : The Journal of Nursing Language and Classification, 10(1), 15-20.
- 2) 小笠原知枝, 久米弥寿子(1999). 臨床実習指導者の体験知に基づく指導行動—3 看護場面における実習指導行動の比較—. 日本看護学教育学会誌, 9(1), 25-34.
- 3) 小笠原知枝(1999). 原著論文の書き方 その1. がん看護, 4 (1), 58-69.
- 4) 阿曾洋子, 上原ます子, 杉本信子, 八田かずよ, 高田喜代子, 氏家幸子(1999). 要介護高齢者の入院・入所・在宅療養における褥瘡の実態と予防・治療・看護・介護に関する調査(報告書).
- 5) 八尾市老人クラブ連合会, 大阪府医師会, 大阪大学医学部公衆衛生学教室, 阿曾洋子, 高田喜代子, 趙林, 高鳥毛敏雄, 中西範幸, 新庄文明, 福田英輝, 村上茂樹, 多田羅浩三(1999). 八尾市における寝たきり高齢者の実情—高齢者の友愛訪問による調査から—I(VIII)(報告書)
- 6) 阿曾洋子, 高田喜代子(1999). 在宅療養に適した住まいの工夫, 地域ケアリング, 1(1), 38-39.
- 7) 阿曾洋子, 村嶋幸代, 佐藤美穂子, 因利恵, 笹森貞子(1999). ケア評価の実際と展望—生活・こころ・家族を支えるケアの質の評価—, 地域ケアリング, 1(4), 18-25.
- 8) 大野ゆう子(1999). 退院後に生活する上で大切なことは何ですか. 毎日ライフ, 30, 80-84.
- 9) 平河勝美(1999). 聴衆の役割. QualityNursing, 5(6), 27-30.
- 10) 平河勝美(1999). 看護職の専門職化に関する研究. 研究論叢, 6, 31-40.
- 11) 大原美香, 近田敬子, 平河勝美, 宮島朝子(1999). 看護学士課程における学生の学習プロセス—葛藤と自尊感情のパターン分析—. 兵庫県立看護大学紀要, 6, 119-131.
- 12) 久米弥寿子, 小笠原知枝, 馬場環, 山中登喜子, 安藤昌代(1999). がん患者の疼痛管理の妨害因子に対する看護婦・医師の認識と知識・態度・関心度. 大阪大学看護学雑誌, 5(1), 8-16.
- 13) 久米弥寿子, 小笠原知枝(1999). 原著論文の書き方・その2, がん看護, 4(3), 242-252.
- 14) 辻聰子, 小笠原知枝, 田中結華, 久米弥寿子, 阿曾洋子, 松木光子(1999). 基礎看護学教育における治療関連技術領域の指導法の検討, 大阪大学看護学雑誌, 5(1), 17-24.
- 15) 辻聰子(1999). 高齢者の転倒における段差と照明の関係—階段下降時の視点異動と発汗量に関する研究—. 女性のためのエッソ研究奨励制度研究報告書, 16(1998年度).
- 16) 高橋育代, 杉田塩, 久米弥寿子, 小笠原知枝(1999). ターミナル期にあるがん患者の苦痛の分析—看護記録によるターミナル期初期と終末期の苦痛の比較—. 大阪大学看護学雑誌, 5(1), 25-31.
- 17) 中山博文, 三浦早苗, 大野ゆう子, 恵谷秀紀, 今泉昌利, 菅田敬一(1999). 脳卒中の疾患イメージに関する研究. 太和証券ヘルス財団報告書, 157-162.
- 18) 杉田塩, 大野ゆう子, 辻聰子, 石田英代, 佐伯有香, 稲邑清成, 原内一, 飯沼正博, 井上俊彦, 井上武宏, 門田守人, 左近賢人, 安藤邦子, 藤本春美, 坂藤昌子, 武田裕(1999). 業

務効率から見た大学附属病院における最適業務時間配分・評価に関する研究. 第3回日本医療情報学会シンポジウム「医療のリエンジニアリングと医療情報学」19(Suppl), 80-81.

- 19) Harauchi, H., Inamura, K., Sugita, S., Ohno, Y., Fujimoto, H., Sakon, M., Monden, M., Bando, M., Inoue, T., T. Inoue, T. (1999). Computerized database for job analysis in departments of radiotherapy and surgery. CARS, 99, 426-429.
- 20) 中山博文, 三浦早苗, 大野ゆう子, 山口武典, 龍山正邦, 松岡正己, 久保田稔, 恵谷秀紀, 今泉昌利(1999). 脳卒中についての理解度に関する研究. 住友海上火災研究助成報告書, 114-117.
- 21) 村田昌代, 藤野博美, 藤本春美, 辻聰子, 大野ゆう子(1999). 甲状腺疾患の術後創における患者のニーズに応じた創傷管理. 大阪大学看護学雑誌, 5(1), 48-55.

2. 単行本(著書, 翻訳本)

- 1) 阿曾洋子編: 阿曾洋子, 板倉勲子, 大巻悦子(1999). 中村裕美子著, 在宅ケアの援助技術. 廣川書店.
- 2) 平河勝美: 訳(1999). イメージ療法. 野島良子, 富川孝子監訳, 心とからだの調和を生むケア(pp.82-99). へるす出版.
- 3) 久米弥寿子(1999). がん予防と早期発見に関する看護. 大場正巳他編, 新しいがん看護(pp.28-58). 東京: プレーン出版.

3. 学会発表(抄録, Proceeding)

- 1) 阿曾洋子, 中野智津子, 池内佳子, 吉田正子(1999). 病棟指導者が必要と判断した教育内容からみた看護基礎教育の検討—就職3ヶ月の看護実践に基づいて—. 日本看護学教育学会第9回学術集会講演集, 194.
- 2) 阿曾洋子, 趙林, 高鳥毛敏雄, 中西範幸, 新庄文明, 福田英輝, 村上茂樹, 多田羅浩三(1999). 在宅要介護高齢者のADLによる生きがいと保健福祉サービスの利用状況. 日本公衆衛生雑誌, 46(10), 553.
- 3) 上原ます子, 阿曾洋子, 高田喜代子, 八田かずよ, 杉本信子(1999). 在宅における褥瘡の予防・ケアの現状と看護の課題. 第30回日本看護学会抄録集—地域看護—, 21.
- 4) 阿曾洋子, 高田喜代子(1999). 在宅寝たきり高齢者のADLの変化に関連する要因からみた看護ケアのあり方. 日本老年看護学会第4回学術集会抄録集, 65.
- 5) 池内佳子, 阿曾洋子, 中野智津子, 吉田正子(1999). 新卒看護婦の看護実践からみた看護教育の検討—就職後3年間の病院指導者の期待レベルと実際との比較に基づいて—. 日本看護学教育学会第9回学術集会講演集, 193.
- 6) 池内佳子, 阿曾洋子, 中野智津子, 黒田公子, 吉田正子(1999). 新卒看護婦の援助技術の自立過程からみた看護教育の検討—就職後1年・3年・5年の比較から—. 第19回日本看護科学学会学術集会講演集, 560-561.
- 7) 大野ゆう子, 横口智子, 浦野友子, 村田加奈子, 杉山裕美, 辻本朋美, 笹井靖子, 三浦早苗, 辻聰子, 矢野忠(1999). 高校生の健康レベルおよび関連因子に関する研究. 日本公衆衛生雑誌, 46(10), 542.
- 8) 久米弥寿子, 小笠原知枝(1999). 基礎看護学演習におけるホールプレイングの教育的効果. 日本看護学教育学会誌, 9(2), 83.
- 9) 久米弥寿子, 小笠原知枝(1999). 看護管理者研修「看護論」に対する教育評価—自己評価の分析—. 第19回日本看護科学学会学術集会講演集, 102-103.
- 10) 辻聰子, 大野ゆう子, 菅生綾子, 三宮信江, 中原藤子, 山本優子, 藤田洋子, 安藤邦子(1999). 外来患者における服薬コ

- ンプライアンス関連要因の検討. 日本公衆衛生雑誌, 46(10), 346.
- 11) 高田喜代子, 阿曾洋子, 田中結華, 板倉勲子(1999). 高齢者における褥瘡予防とマットレス仕様との関連についての研究. 第19回日本看護科学学会学術集会講演集, 248-249.
 - 12) 高橋育代, 杉田塩, 久米弥寿子, 小笠原知枝(1999). ターミナル期にあるがん患者の全人的苦痛の特徴. 第12回日本看護研究学会近畿・北陸/中国・四国地方会抄録集, 52.
 - 13) 長坂正子, 久米弥寿子, 小笠原知枝(1999). 看護婦と看護学生の死生観—イメージと態度による調査研究. 第12回日本看護研究学会近畿・北陸/中国・四国地方会抄録集, 53.
 - 14) 木村静, 阿曾洋子, 高田喜代子, 伊部亜希, 玉井由理子(1999). マットレスの違いによる身体負荷と寝心地に関する研究. 第7回看護人間工学学会.
 - 15) 板倉勲子, 阿曾洋子, 高田喜代子, 古賀輝美, 木村静(1999). 床上で排泄が容易な体位に関する研究—身体負荷と感覚の比較—. 第7回看護人間工学学会.
 - 16) 板倉勲子, 阿曾洋子, 高田喜代子(1999). 床上で排泄が容易な便器の選択に関する研究—身体負荷と感覚の比較—. 第19回日本看護科学学会学術集会講演集, 234-235.
 - 17) 辻本朋美, 大野ゆう子, 三浦早苗, 中山博文(1999). 脳卒中の知識教育のあり方に関する一考察. 日本公衆衛生雑誌, 46(10), 242.
 - 18) 三浦早苗, 中山博文, 大野ゆう子, 辻本朋美, 龜山正邦(1999). 脳卒中意識調査に基づく高齢者における生活習慣の意識と実際. 日本公衆衛生雑誌, 46(10), 242.
 - 19) 佐伯有香, 大野ゆう子, 辻聰子, 杉田塩, 石田英代, 杉山裕美, 平河勝美, 藤本春美, 坂藤昌子, 安藤邦子(1999). 病棟看護業務の構成要素についての考察—タイムスタディに基づく業務専門性分析による—. 日本公衆衛生雑誌, 46(10), 185.
 - 20) 杉田塩, 大野ゆう子, 辻聰子, 佐伯有香, 稲邑清成, 原内一, 飯沼正博, 金原素子, 中村基子, 竹下英之, 国府裕子, 門田守人, 左近賢人, 藤本春美, 安藤邦子(1999). タイムスタディに基づく病棟医師、看護業務の実態分析. 日本公衆衛生雑誌, 46(10), 185.
 - 21) 杉山裕美, 大野ゆう子, 辻聰子, 田村知則(1999). 視機能の測定と評価に関する研究—プロ野球選手の視機能—. 日本公衆衛生雑誌, 46(10), 230.
 - 22) 笹井靖子, 大野ゆう子, 辻聰子, 村田加奈子(1999). 急性心筋梗塞患者の発症危険因子と関連づけた生活習慣に対する認識. 日本公衆衛生雑誌, 46(10), 425.
 - 23) 浦野友子, 大野ゆう子, 辻聰子, 樋口智子, 村田加奈子, 辻本朋美, 杉山裕美, 笹井靖子, 三浦早苗, 藤田麻里, 矢野忠(1999). 高校生における心身健康レベルの妥当性検討. 日本公衆衛生雑誌, 46(10), 542.
 - 24) 村田加奈子, 大野ゆう子, 辻聰子, 浦野友子, 樋口智子, 藤田麻里, 矢野忠(1999). 高校生における学年、進路別にみた健康とライフスタイルの特性. 日本公衆衛生雑誌, 46(10), 542.
 - 25) 杉田塩, 大野ゆう子, 辻聰子, 佐伯有香, 稲邑清成, 原内一, 飯沼正博, 金原素子, 中村基子, 国府裕子, 門田守人, 左近賢人, 安藤邦子, 藤本春美, 武田裕(1999). タイムスタディに基づく患者重症度別業務量の比較. 第19回医療情報学連合大会論文集, 920-921.
 - 26) 佐伯有香, 大野ゆう子, 辻聰子, 杉田塩, 稲邑清成, 原内一, 飯沼正博, 金原素子, 中村基子, 国府裕子, 門田守人, 左近賢人, 安藤邦子, 藤本春美, 武田裕(1999). タイムスタディに基づくケア提供と看護量測定尺度の実証的検討. 第19回医療情報学連合大会論文集, 922-923.
 - 27) 村田加奈子, 大野ゆう子, 辻聰子, 辻本朋美, 杉山裕美(1999). 高齢社会における保健医療提供人員数推計のための医療需要度別患者モデルの構築. 第19回医療情報学連合大会論文集, 982-983.
 - 28) 笹井靖子, 大野ゆう子, 辻聰子, 村田加奈子(1999). 大規模調査研究におけるデータベース管理の問題点と在り方. 第19回医療情報学連合大会論文集, 998-999.
 - 29) 石田英代, 竹村匡正, 杉田塩, 南江由記子, 大野ゆう子, 芦田信之, 鈴田英明, 小室多恵子, 森口直子, 濱口弘子, 織田百代, 長谷川利典(1999). 退院後患者による退院指導評価と退院後生活調査—患者情報フィードバックシステム案の検討—. 第19回医療情報学連合大会論文集, 256-257.
 - 30) 三浦早苗, 中山博文, 大野ゆう子, 龜山正邦, 山口武典(1999). 電話相談の医療情報提供能力の評価. 第19回医療情報学連合大会論文集, 976-977.
 - 31) Harauchi, H., Sugita, S., Inamura, K., Ohno, Y., Inoue, T., Monden, M., et al. (1999). Construction of a Job Analysis System for Optimizing Workflows and Medical Staffs Deployment in Hospital. Radiological Society of North America, 213(P), 263.
 - 32) Miura, S., Nakayama, H., Ohno, Y., Kameyama M., Yamaguchi, T. (1999). Analysis of Inquiries made to Telephone Consultation Service of the Japan Stroke Association. CVD in ASIA.
 - 33) 八田かずよ, 阿曾洋子, 上原ます子, 杉本信子, 高田喜代子(1999). 病棟における褥瘡の保有状況と実施ケアからみた看護体系の問題点と課題. 第30回日本看護学会抄録集—看護管理—, 36.

4. 研究助成

- 1) 小笠原知枝他(1997). 平成9年度科学研究費補助金, 基盤研究(C)(助成期間平成9~11年度).
- 2) 阿曾洋子(代表), 吉田光雄, 平井富弘, 小笠原知枝, 大野ゆう子, 平河勝美, 久米弥寿子, 辻聰子, 高田喜代子, 田中結華(1999). 平成11年度科学研究費補助金, 基盤研究(B)(助成期間平成10~12年度).
- 3) 古賀輝美, 阿曾洋子, 高田喜代子, 八田かずよ(1999). 平成11年度木村看護教育振興財団看護研究助成(助成期間平成11年度).
- 4) 大野ゆう子, 他(1999). 平成11年度科学研究費補助金, 基盤研究(B)(1)(助成期間平成11~13年度).
- 5) 久米弥寿子(1999). 平成11年度科学研究費補助金, 奨励研究(A)(助成期間平成11~12年度).
- 6) 辻聰子(1999). 第7回(平成10年度)社団法人照明学会「研究・教育助成金」, 奨励研究(助成期間平成10~11年度).
- 7) 辻聰子(1999). 平成10年度科学研究費補助金, 奨励研究(A)(助成期間平成10~11年度).
- 8) 高田喜代子(1999). 平成11年度科学研究費補助金, 奨励研究(A)(助成期間平成11~12年度).
- 9) 高田喜代子(1999). (財)大阪大学後援会平成11年度研究助成金(助成期間平成11年度).

母性小児看護学講座

1. 論文(原著, 総説, 報告書等)

- 1) 鈴木敦子(1999). 入院している子どもの遊びに対するイギリスにおける考え方とその現状. 小児看護, 22(4), 440-444.
- 2) 鈴木敦子(1999). 保健婦・助産婦活動と子ども虐待. 保健の科学, 41(8), 588-592.
- 3) 鈴木敦子(1999). 書評「少年A」この子を生んで・・・, 看

- 護, 51(8), 124.
- 4) 鈴木敦子, 楠木野裕美, 鎌田佳奈美, 中村敦子(1999). 入院児の遊びの状況とエデュテインメント的視点からの遊びの提供. 平成10年度財団法人中山集雄科学技術文化財団研究成果報告書, 1-60.
 - 5) 原田徳蔵(1999). 子どもの在宅医療と保育. 日本保育園保健協議会誌、保育と保健, 4(2), 50-51.
 - 6) 原田徳蔵(1999). 乳幼児の栄養生理. 大阪府保育所保健連絡協議会誌, 24, 49-52.
 - 7) 原田徳蔵, 異圭太, 三木和典, 安住美知代, 柏井卓, 網野信行, 岡田伸太郎(1999). 「高TSH血症一持続型」患児の病因・病態の解析についての研究一主に分子生物学的方法を用いて. 第4回 Novo Nordisk 研究会記録集, 40-42.
 - 8) Miki, K., Harada, T., Ozaki, Y., Nakajima, S., Tajiri, H., Iwatani, Y., Tamaki, H., Amino, N., Mitsuda, M., Murata, Y., Nishino, S., Okada, S.(1999). Long-term outcome in physical growth, intellectual development and thyroid function of five patients with transient neonatal thyroid dysfunction born to mothers with Graves' Disease. *Clin Pediatr Endocrinol*, 8(1), 43-49 .
 - 9) Soh, H., Hasegawa, T., Sasaki, T., Azuma, T., Okada, A., Mushiake, S., Kogaki, S., Matsusita, T., Harada, T.(1999). Pulmonary hypertension associated with postoperative biliary atresia: Report of two cases. *J Pediatr Surg*, 34(12), 1779-1781.
 - 10) Wasa, M., Takagi, Y., Sando, K., Harada, T., Okada, A.(1999). Intestinal adaptation in pediatricpatients with short-bowel syndrome. *Eur J Pediatr Surg*, 9, 207-209.
 - 11) Wasa, M., Takagi, Y., Sando, K., Harada, T., Okada, A.(1999). Long-term outcome of short bowel syndrome in adult and pediatric patients. *JPEN*, 23(5), S110-112.
 - 12) 高木洋治, 岡田正(1999). 在宅静脈栄養のメリット・デメリット. *臨床外科*, 54(9), 1161-1168.
 - 13) 高木洋治(1999). わが国でのHPNの実施状況ー在宅静脈(HPN)研究会調査報告書をもとに. *JJPEN*, 21(8), 529-238.
 - 14) 高木洋治(1999). 糖尿病と微量元素. *Diabetes Journal (糖尿病と代謝)*, 27(2), 45-53.
 - 15) 高木洋治, 岡田正(1999). 在宅静脈栄養法. *カレントテラピー*, 17(10), 30-39.
 - 16) 高木洋治(1999). 第6次改定日本人の栄養所要量(3)ー食事摂取基準鉄・亜鉛. *臨床栄養*, 95(6), 690-698.
 - 17) 高木洋治(1999). 在宅栄養管理. *クリニカルエンジニアリング*, 10(11), 1024-1031.
 - 18) 高木洋治(1999). マンガン(Mn)の栄養状態の評価について. *栄養—評価と治療*, 16(2), 223-227.
 - 19) 高木洋治(1999). ビタミンの新たな展開 総論ー最近の話題. *医療ジャーナル*, 35(12), 3041-3048.
 - 20) 高木洋治(1999). 痴呆性老人における中心静脈栄養とその注意点. *老年精神医学雑誌*, 10(12), 1129-1135.
 - 21) 高木洋治, 山東勤弥, 岡田正(1999). 栄養輸液と血中微量元素測定. *Biomed Res Trace Elements*, 10(3), 287-288.
 - 22) 高木洋治, 山東勤弥, 和佐勝史, 吉田洋, 斎藤英樹, 上野孝, 岡田正, (平吹度夫)(1999). 在宅静脈栄養(HPN)患者における新たなMn指標と至適静脈投与量の検討. *Biomed Res Trace Elements*, 10(3), 289-290.
 - 23) 上野孝, 山東勤弥, 吉田洋, 曹英樹, 和佐勝史, 日吉富志帆, 高木洋治, 岡田正(1999). 安静時基礎代謝量の算出におけるHarris-Benedict式の妥当性についての検討. *栄養—評価と治療*, 16(4), 29.
 - 24) Nezu, R., Takagi, Y., Ito, T., Matsuda, H., Okada, A. (1999). The importance of total parenteral nutrition associated tissue zinc distribution in wound healing. *Surgery Today*, 29, 34-41.
 - 25) Yoshida, H., Sando, K., Wasa, M., Takagi, Y., Okada, A. (1999). Home nutrition management-Management of enteral and parenteral nutrition. *Asian Medical Journal*, 42(7), 335-341.
 - 26) Cui, L., Takagi, Y., Wasa, M., Sando, K., Khan J., Okada, A. (1999). Nitric oxide synthase inhibitor attenuates intestinal damage induced by zinc deficiency in rats. *J Nutr*, 129, 792-798.
 - 27) Cui, L., Takagi, Y., Sando, K., Wasa, M., Okada, A. (1999). Nitric oxide synthase inhibitor attenuates inflammatory lesions in the skin of zinc-deficient rats. *Nutrition*, 15, 1-8.
 - 28) Chen, K., Nezu, R., Wasa, M., Sando, K., Kamata S., Takagi, Y., Okada, A. (1999). Insulin-like growth factor-1 modulation of intestinal epithelial cell restitution. *JPEN*, 23(5), S89-92.
 - 29) Khan, J., Iiboshi, Y., Cui, L., Wasa, M., Sando, K., Takagi, Y., Okada, A. (1999). Alanine-glutamine-supplemented parenteral nutrition increases luminal mucus gel and decreases permeability in the rat small intestine. *JPEN*, 23(1), 24-31.
 - 30) 楠木野裕美(1999). 家族への対応ー乳幼児突然死症候群が起きてしまった時の対応. 小児看護, 22(4), 74-77.
 - 31) 楠木野裕美(1999). 日本の遊びをめぐる環境の実態. 小児看護, 22(4), 445-449.
 - 32) 楠木野裕美(1999). 児童虐待に関する基礎的研究IIー妊娠の内的ワーキングモデルと親になることに対する態度ー. 日本乳幼児教育学会誌, 8.
 - 33) 楠木野裕美, 鈴木敦子, 鎌田佳奈美(1999). 産科病棟・NICUにおける子どもの虐待防止に対する看護職のアセスメントとケアの傾向ーハイリスクの母親をケアした経験の有無による比較ー. 大阪大学看護学雑誌, 5(1), 32-39.
 - 34) 中嶋有加里, 水畠喜代子, 羽座典子, 細野剛良, 山地建二(1999). 妊婦の自動車運転に関する研究(第3報)ー運転中のCardiotocogramモニタリングー. 大阪大学看護学雑誌, 5(1), 40 - 47.
 - 35) 中嶋有加里, 水畠喜代子, 炭原加代, 山地建二, 鏡堂美恵, 梶本勝, 藤岡千秋(1999). 妊娠中の清潔に関する生活行動と膣内細菌叢の関連. 日本健康教育学会誌, 7, 238-239.
 - 36) 中嶋有加里, 岩田朋美, 炭原加代, 水畠喜代子, 山地建二, 細野剛良, 大橋一友, 染原和子, 谷口武, 羽座典子(1999). マタニティドライビングに関する実態調査(第2報)ー大阪府泉佐野市と香川県小豆郡(小豆島)の比較ー. 大阪母性衛生学会雑誌, 35(1), 55-57.
 - 37) 中嶋有加里, 岩渕美幸, 炭原加代, 水畠喜代子, 山地建二, 大橋一友, 染原和子, 谷口武(1999). マタニティドライビングに関する意識調査(第2報)ー大阪府泉佐野市における調査ー. 大阪母性衛生学会雑誌, 35(1), 52-54.
 - 38) 水畠喜代子, 中嶋有加里, 炭原加代, 山地建二, 大橋一友, 染原和子, 谷口武(1999). マタニティドライビングにおけるシートベルト着用に関する研究. 大阪母性衛生学会雑誌, 35(1), 58-60.
 - 39) 中嶋有加里, 炭原加代, 水畠喜代子, 山地建二, 大橋一友, 染原和子, 谷口武(1999). 妊娠中の自動車運転が子宮収縮に及ぼす影響に関する研究(第3報)ー子宮収縮増強要因の分析ー. 大阪母性衛生学会雑誌, 35(1), 61-64.
 - 40) 炭原加代, 曽木茜, 田中春美, 中嶋有加里, 田間惠實子, 山地建二, 松永幸枝, 野原当, 平松恵三(1999). 妊娠・出産に伴う腹部の変化に関する研究(第3報). 大阪母性衛生学会雑誌, 35(1), 40-45.
 - 41) Yamaji, K., Nakajima, Y., Miyamae, Y., Sumihara, K., Yamaguchi, M., Tama, E. (1999). MATERNAL AND CHILD HEALTH NURSING COURSE FOR THE COUNTRIES OF INDOCHINA. 25th Triennial Congress of the International Confederation of Midwives, Book of Proceedings, 589 – 591.

2. 単行本(著書, 翻訳本)

- 1) 高木洋治(1999). 低アルブミン血症. 渡辺明治編, 臨床アルブミン学: メディカルレビュー社.
- 2) 山地建二(1999). 妊娠時の疾患. 黒川清, 松澤佑次編, 内科学(pp124-127): 文光堂.

3. 学会発表(抄録, Proceeding)

- 1) 楠木野裕美, 鈴木敦子, 片田範子, 蝦名美智子他(1999). 検査・処置を終えた子どもの思いに関する研究. 第19回日本看護科学学会学術集会.
- 2) 辻山洋美, 筒井真優美, 片田範子, 蝶名美智子, 鈴木敦子, 楠木野裕美, 他(1999). 検査・処置を受ける子どもと親のずれ. 日本家族看護学会第6回学術集会.
- 3) 二宮啓子, 蝶名美智子, 半田浩美, 片田範子, 勝田仁美, 村田恵子, 鈴木敦子, 楠木野裕美, 鎌田佳奈美, 筒井真優美, 飯村直子, 辻山洋美(1999). 検査・処置を受ける子どもへの説明・納得に関する研究ー医師・看護者・親の役割についてー. 小児保健学会.
- 4) 飯村直子, 筒井真優美, 辻山洋美, 蝶名美智子, 二宮啓子, 半田浩美, 片田範子, 勝田仁美, 鈴木敦子, 楠木野裕美, 鎌田佳奈美, 村田恵子, 戸木クレイグヒル滋子(1999). 検査や処置を受ける子どもと医療者のずれ. 日本小児看護学会.
- 5) 勝田仁美, 片田範子, 蝶名美智子, 二宮啓子, 半田浩美, 鈴木敦子, 楠木野裕美, 鎌田佳奈美, 筒井真優美, 飯村直子, 辻山洋美, 村田恵子, 戸木クレイグヒル滋子(1999). 検査・処置を受ける子どもの覚悟. 日本看護学会ー小児看護ー.
- 6) 飯沼明子, 細見育子, 松尾恵, 中野由紀, 門脇寛子, 小坂はるみ, 鈴木敦子, 楠木野裕美, 鎌田佳奈美(1999). 子どもの入院に付添う母親の心身状況の分析. 日本看護学会ー小児看護ー.
- 7) 原田徳蔵(1999). 特別講演ー小児の生活習慣病の実態とその管理. 第9回日本外来小児科学会.
- 8) 村上聖女, 舟橋舞, 原田徳蔵(1999). プラダー・ウィリ症候群児の親が抱える育児上の困難と将来に対する不安について. 第30回大阪小児保健研究会.
- 9) 木戸内美香, 久壽米木章子, 原田徳蔵, 岡田伸太郎, 岡田正(1999). 先天性胆道閉鎖症の子どもを持つ家族の日常生活における意識調査. 第30回大阪小児保健研究会.
- 10) 三木和典, 澤田敦, 古座岩宏輔, 虫明聰太郎, 多田香苗, 恵谷ゆり, 三善陽子, 近藤宏樹, 田尻仁, 原田徳蔵, 岡田伸太郎(1999). 小児炎症性腸疾患における大腸腸管粘膜透過性機能の疾患活動度・病変部位・各種検査マーカーとの関連性. 第26回日本小児栄養消化器病学会.
- 11) 川井正信, 田尻仁, 近藤宏樹, 三善陽子, 恵谷ゆり, 多田香苗, 澤田敦, 虫明聰太郎, 岡田伸太郎, 原田徳蔵, 三木和典(1999). 直腸病変に対しペタメサゾン注腸が有効であったクローン病の1例. 第26回日本小児栄養消化器病学会.
- 12) 三木和典, 原田徳蔵, 番圭太, 安住美知代, 岡田伸太郎, 柏井卓, 網野信行, 尾崎由和, 宮井潔(1999). 「高TSH血症一持続型」患児の病因・病態の解析. 第33回日本小児内分泌学会.
- 13) 高木洋治, 山東勤弥, 岡田正(1999). 栄養輸液と血中微量元素測定. 日本微量元素学会(10).
- 14) 高木洋治, 山東勤弥, 和佐勝史, 吉田洋, 斎藤英樹, 上野孝, 岡田正, 平吹度夫(1999). 在宅静脈栄養(HPN)患者における新たなMn指標と至適静脈投与量の検討. 日本微量元素学会(10).
- 15) 高木洋治, (佐藤徳太郎, 福島恒夫, 城谷典保, 内山昌則, 竹山廣光, 嵩原裕夫, 溝手博義)(1999). 在宅静脈栄養(HPN)登

録状況ー1999年実施調査より. 在宅静脈栄養(HPN)研究会(14).

- 16) 高木洋治(1999). I, Mn, Zn, Cu. 日本栄養・食糧学会公開シンポジウム「第6次改定日本人の栄養所要量をめぐって」.
- 17) 高木洋治(1999). 栄養アセスメントの重要性と問題点. 栄養アセスメント講演会.
- 18) 高木洋治(1999). 静脈栄養とマンガン. 近畿ドクターフォーラム(6).
- 19) 高木洋治(1999). ミネラル所要量. 山口栄養士会平成11年度第1回専門研修会.
- 20) 和佐勝史, 高木洋治, 吉田洋, 山東勤弥, (原田徳蔵), 岡田正(1999). 当科におけるHPNの現状と普及に向けての課題. 在宅静脈栄養(HPN)研究会(14).
- 21) 山東勤弥, 吉田洋, 曹英樹, 保木昌徳, 和佐勝史, 斎藤英樹, 上野孝, 高木洋治, 岡田正(1999). 診療と研究のビューポイント中心静脈カテーテル挿入時の工夫(心電図モニターの利用). 日本腹部救急医学会(33).
- 22) 山東勤弥, 吉田洋, 曹英樹, 保木昌徳, 和佐勝史, 日吉富志帆, 上野孝, 高木洋治, 岡田正(1999). 中心カテーテル挿入時の工夫. 近畿輸液・栄養研究会(9).
- 23) 吉田洋, 山東勤弥, 和佐勝史, 高木洋治, 岡田正(1999). Broviacタイプ中心静脈カテーテル挿入時固定法の一工夫“Anchoring fixation suture”. 日本小児外科学会(36).
- 24) 吉田洋, 山東勤弥, 和佐勝史, 佐藤美奈子, 斎藤英樹, 上野孝, 日吉富志帆, 高木洋治, 岡田正(1999). 心電図ガイド下中心静脈カテーテル挿入法の有用性の検討. 近畿外科学会(165).
- 25) 吉田洋, Chen, K., 山東勤弥, 和佐勝史, 高木洋治, 岡田正, (木曾良信)(1999). ミード酸前投与によるラット小腸潰瘍モデルに対する抑制効果の検討. 日本外科学会(99).
- 26) 曹英樹, 山東勤弥, 上野孝, 吉田洋, 和佐勝史, 高木洋治, 岡田正(1999). 安静時基礎代謝量の実測値と各種算出方法による推定値の比較. 日本外科代謝栄養学会(36).
- 27) 上野孝, 山東勤弥, 吉田洋, 曹英樹, 和佐勝史, 日吉富志帆, 高木洋治, 岡田正(1999). 安静時基礎代謝量の算出におけるHarris-Benedict式の妥当性についての検討. 日本栄養アセスメント研究会(22).
- 28) Nakajima,Y., Mizuhata,K., Hosono,T., Yamaji, K.(1999). PREGNANT WOMEN'S VAGINAL MICROBIAL FLORA IN ONE URBAN AREA IN JAPAN. Manila Philippine : 25th Triennial Congress of the International Confederation of Midwives.
- 29) Nakajima,Y., Mizuhata,K., Ohashi,K., Yamaji, K.(1999). PREGNANT AND POSTPARTUM WOMEN'S HEALTH BEHAVIORS IN JAPAN – COMPARISON BETWEEN URBAN AREA AND RURAL AREA – . Manila, Philippine: 25th Triennial Congress of the International Confederation of Midwives.
- 30) 中嶋有加里, 水畠喜代子, 染原和子, 谷口武, 山口雅子, 炭原加代, 田間恵實子, 細野剛良, 村田雄二, 山地建二(1999). 妊娠中の自動車運転が子宮収縮に及ぼす影響に関する研究(第4報)ー運転席と助手席乗車の比較ー. 第40回日本母性衛生学会.
- 31) 水畠喜代子, 中嶋有加里, 染原和子, 谷口武, 山口雅子, 炭原加代, 田間恵實子, 大橋一友, 山地建二(1999). マタニティドライビングに関する実態調査(第3報)ーノンドライバーについてー. 第40回日本母性衛生学会.
- 32) 炭原加代, 宮前由喜子, 中嶋有加里, 田間恵實子, 山地建二(1999). 大学生の基礎体温測定とその意義. 第40回日本母性衛生学会.
- 33) 三宅和美, 田村真美, 北川明, 山地建二, 炭原加代, 田中春美, 中嶋有加里, 田間恵實子(1999). インターネットを用い

- た情報交換システムの開発. 第40回日本母性衛生学会.
- 34) 山口雅子(1999). ラット脂肪組織におけるリポ蛋白リバーゼ活性に及ぼす性周期の影響. 第40回日本母性衛生学会.
- 35) 山口雅子, 升野博志, 奥田拓道(1999). 性周期の各期でのリポ蛋白リバーゼ活性の血中インスリンに対する感受性の違い. 第72回日本化学会大会.

4. 助成研究

- 1) 松井一朗(代表), 小林美智子, 納谷保子, 鈴木敦子(1999). 母子保健における養育問題事例への援助実態. 厚生省心身障害研究.
- 2) 蝦名美智子(代表), 片田範子, 鈴木敦子, 筒井真奈美, 村田恵子, 楠木野裕美, 他(1999). 検査・手術を受ける子どもへのインフォームドコンセント—看護の実態とケアモデルの構築—. 文部省科学研究費(基盤B).
- 3) 鈴木敦子(代表), 楠木野裕美, 鎌田佳奈美, 中村敦子, 上野昌江(1999). 養育不全の母親のタイプの解明と彼ら及びその子どもが必要としている質的ケアの探究. 平成10-12年度科学的研究補助金, 基盤研究(B).
- 4) 楠木野裕美(代表), 鈴木敦子, 鎌田佳奈美, 中村敦子(1999). 歪んだ親子関係の世代間伝達を克服するための要因の解明とその育児支援の探求. 平成11-13年度科学的研究補助金, 基盤研究(C).
- 5) 高木洋治(代表), 岡田正(1999). 実験的小腸移植におけるグラフト関連リンパ組織の解析—免疫抑制剤 FK50C/FTY720 の免疫抑制効果—. 文部省科学研究費, 基盤研究(C).
- 6) 山地建二(代表), 村田雄二, 大森正昭, 中嶋有加里(1999). 妊婦の自動車運転の安全性に関する総合的研究. 文部省科学研究費, 萌芽的研究.
- 7) 中嶋有加里(1999). 妊婦の自動車運転の安全性に関する基礎的研究. 文部省科学研究費, 奨励研究(A).

成人・老人看護学講座

1. 論文(原著, 総説, 報告書等)

- 1) 杉山公子, 奥村千春, 渡辺信一郎(1999). 咀嚼運動による脳血液循環の変化測定におけるドップラー法の有効性. 看護研究, 32(6), 35-44.
- 2) 江川隆子(1999). -総論-透析看護過程のすすめ方. 臨床透析, 15(3), 279-287.
- 3) 江川隆子(1999). 腎透析看護の考え方と看護計画. 透析ケア, 5(12), 14-19.
- 4) 江川隆子(1999). 看護診断ゲートウェイ【第1回】看護診断の魅力と責任. 週刊医学界新聞, 2348, 5.
- 5) 江川隆子(1999). 看護診断ゲートウェイ【第6回】NANDA, NIC and NOC の活動. 週刊 医学界新聞, 2367, 5.
- 6) 江川隆子(1999). 腎透析看護領域における患者の理解—看護診断とケア. 日本腎不全看護学会誌, 1(1), 30-32.
- 7) 江川隆子(1999). 看護診断と「看護の質の保証」. 月刊ナーシング, 19(11), 82-85.
- 8) 萩野敏, 入船盛弘, 後藤啓恵, 仙波治, 野入輝久(1999). モメタゾン点鼻液の臨床的検討(第1報)—スギ花粉症での用量比較試験-. 耳鼻臨床, 92(3), 309-324.
- 9) 萩野敏, 入船盛弘, 仙波治, 坂口喜清, 馬谷克則, 野入輝久, 榎本雅夫, 寒川高男, 北嶋和智(1999). モメタゾン点鼻液の臨床的検討(第2報)—スギ花粉症に対するDSCGとの比較-. 耳鼻臨床, 92(4), 435-450.
- 10) 萩野敏, 野入輝久, 仙波治, 馬谷克則, 馬場謙治, 入船盛

- 弘, 有本啓恵(1999). モメタゾン点鼻液の臨床的検討(第3報)-3主徴スコアを指標とした新臨床評価法-. 耳鼻臨床, 92(5), 549-564.
- 11) 萩野敏, 穂永美恵子, 松田かおり(1999). アレルギー疾患の疫学的研究(第1報)-大阪大学保健学科学生におけるアレルギー性鼻炎の有病率-. 耳鼻, 45(6), 553-557.
- 12) 萩野敏(1999). 暮しと健康相談室「副鼻腔炎」. 暮しと健康, (4), 89.
- 13) 萩野敏(1999). 花粉症とは何か—その対策と予防-. 大阪大学看護学雑誌 5(1), 2-7.
- 14) 萩野敏(1999). アスピリン過敏症における鼻病変. 日本醫事新報, 3925, 25-30.
- 15) Irifune, M., Ogino, S., Harada, T., Abe, Y(1999). Topical treatment of nasal polyps with a beclomethasone dipropionate powder preparation. Auris Nasus Larynx 26, 49-55.
- 16) Fujimoto, K., Ohta, K., Kangawa, K., Kikkawa, U., Ogino, S., Fukui, H.(1999). Identification of protein kinase C phosphorylation sites involved in phorbol ester-induced desensitization of the histamin H1 receptor. Molecular Pharmacology 85, 735-743.
- 17) Ogino, S., Irifune, M., Nishiike, S., Sawada, T., Sakaguchi, Y., Nibu, M. (1999). QOL in Japanese-cedar pollinosis-Second report. Quality of Life Research 8(7), 616.
- 18) 田墨恵子, 國生拓子(1999). 麻痺を持つ患者への心のケアと日常生活援助—結婚直前に脳腫瘍を発病した事例を通して考える-. こころの看護学 3(3), 217-221.
- 19) 國生拓子, 戸澤順子(1999). 不登校児童にみられた入院生活での集団行動について. こころの看護学, 3(4), 301-308.
2. 単行本(著書, 翻訳本)
- 1) 江川隆子, 今井雪香, 大川明子, 他(1999). 江川隆子のかみくだき看護診断. 日総研出版.
 - 2) 江川隆子(1999). 成果と指標の開発のために用いた方法, 成果. マリオン・ジョンソン, メリディーン・マース著. 藤村龍子, 江本愛子: 監訳. 看護成果分類(NOC)看護ケアを評価するための指標・測定尺度(pp.38-49, 81-299).
 - 3) 萩野敏:監修(1999). 自分の病気を正しく理解し『花粉症』と“うまくつきあう方法”. 大阪:トーア総合企画社.
 - 4) 川野雅資編著, 國生拓子:共著(1999). 看護学基礎講座 精神看護学. 真興交易医書出版部.
 - 5) 山本裕子, 江川隆子(1999). 慢性腎不全患者の看護—透析療法を受ける患者-. クリニカルスタディ・ブック4 ひとりで学べるナーシングプロセス 成人・老人看護(pp120-131). メディカルフレンド社.
3. 学会発表(抄録, Proceeding)
- 1) 江川隆子(1999). 看護研究—看護研究は身近な看護援助から-. 第2回日本腎不全看護学会.
 - 2) 江川隆子(1999). The Present Status of Diabetes Nursing in Japan. 第1回 The Japan-Korea Conference on Nursing of Chronic Disease.
 - 3) 江川隆子, 今井雪香, 升谷英子(1999). 基礎看護課程における看護診断概念の教育～成人看護学における看護診断の指導～. 第5回日本看護診断学会学術大会.
 - 4) 萩野敏(1999). 花粉症の診断と治療. 第5回和歌山耳鼻咽喉科臨床研究会.
 - 5) 萩野敏(1999). 花粉症における薬物治療の現況. 第5回柄木花粉症研究会.
 - 6) 萩野敏(1999). アレルギー疾患の最新情報「(2)鼻アレルギー・花粉症-治療のポイント」. 第5回大阪アレルギー週間市民講座.

- 7) 萩野敏(1999). アレルギー性鼻炎の治療－最新の話題・第4回奈良アレルギー性鼻炎研究会.
- 8) 萩野敏(1999). アレルギー疾患治療の最新情報－代表的な疾患を中心に－『花粉症』・第5回大阪アレルギー週間学術講演会.
- 9) 萩野敏(1999). アレルギー性鼻炎の発症機序・病態と治療－小児と成人の共通点と相違点. 第11回日本アレルギー学会春季臨床大会.
- 10) 萩野敏(1999). アスピリン喘息と鼻茸. 第5回広島上気道感染症研究会.
- 11) 萩野敏, 入船盛弘, 坂口喜清, 丹生真理子, 馬場謙治(1999). スギ花粉症におけるQOL(SF-36を用いて). 耳鼻免疫アレルギー 17(2), 146-147. (第17回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会).
- 12) Ogino, S., Irfune, M., Nishiike, S., Sawada, T., Sakaguchi, Y., Nibu, M., (1999). QOL in Japanese-cedar pollinosis-Second report. 6th Annual Conference of the International Society for Quality of Life Research.
- 13) 萩野敏, 川喜良明, 水津百合子, 入船盛弘(1999). アスピリン喘息と添加物. 第100回日本耳鼻咽喉科学会学術総会.
- 14) 萩野敏, 入船盛弘, 坂口喜清, 丹生真理子, 馬場謙治(1999). スギ花粉症におけるQOL(SF-36を用いて). 第11回日本アレルギー学会春季臨床大会.
- 15) 山本洋子, 木村義, 江川隆子, 今井雪香, 他(1999). タクソノミー・新原案を用いた再分類の試みとクラスの研究. 第5回日本看護診断学会学術大会.
- 16) 山本裕子(1999). 糖尿病性腎症患者の腎症の認識と自己管理状況について. 日本糖尿病教育・看護学会第4回学術集会.
- 17) 浅草規久治, 晋川朋子, 伸井美和, 塩見一成, 刀谷峰子, 寺師栄, 高橋章子, 河村葉子(1999). 看護ケア見直しへの取り組み 効果的な呼吸理学療法を考える 第1報 タッピング(パークッション)とスクイーリングの効果の比較検討. 第1回日本救急看護学会学術集会.
- 18) 神谷千鶴, 今井雪香, 江川隆子(1999). 慢性血液透析患者の健康行動に対するセルフエフィカシーの特徴. 第2回腎不全看護学会.
- 19) 上原淳子, 池田明子(1999). 精神科における身体合併症を有する患者の看護アセスメントについての一考察. 日本精神保健看護学会第9回学術集会.

4. 研究助成

- 1) (社)全国訪問看護事業協会(代表), 江川隆子, 河村葉子, 今井雪香, 上原淳子, 他(1999). 介護保険制度下における訪問看護に必要な資質と技能に関する調査及び研究. 老人保健事業推進等補助金(老人保健健康増進等事業分)事業.

地域看護学講座

1. 論文(原著, 総説, 報告書等)

- 1) 草野恵美子, 依藤史郎, 早川和生(1999). 背部における交感神経皮膚反応Sympathetic Skin Response(SSR)-体位変換が及ぼす影響. 日本看護研究学会雑誌, 22(4), 9-15.
- 2) 早川和生, 日野田智也, 石沢美保子, 山田繁代(1999). 看護・介護ビジネスの拡大期を迎えて. 看護学雑誌, 63(5), 428-435.
- 3) 岸田理恵, 早川和生(1999). 看護・介護ビジネスに参入している企業の現状. 看護学雑誌, 63(5), 436-440.
- 4) 中谷信章, 早川和生(1999). イギリスにおけるケア・ビジネスの進展. 看護学雑誌, 63(5), 445-447.

- 5) 早川和生(1999). ナースセラピストについて思うこと. こここの看護学, 3(2), 91-92.
- 6) Kamiyama, T., Muratani, H., Kimura, Y., Fukiyama, K., Abe, K., Fujii, J., Kuwajima, I., Ishii, M., Shiomi, T., Kawano, Y., Mikami, H., Ibayashi, S. and Omae, T. (1999). Factors related to impairment of activities of daily living. Internal Medicine 38(9), 698-704.
- 7) Hiwada, K., Ogihara, T., Matsumoto, M., Matsuoka, H., Takishita, S., Shimamoto, K., Toba, K., Abe, I., Kohara, K., Morimoto, S., Mikami, H., Iwai, K., Takasaki, M., Kawano, Y., Higashihara, K., Kozaki, K., Eto, M. and Fujishima, M. (1999). Guidelines for hypertension in the elderly --1999 Revised version--. Hypertension Research 22(4), 231-259.
- 8) Nishii, T., Moriguchi, A., Morishita, R., Yamada, K., Nakamura, S., Tomita, N., Kaneda, Y., Fukamizu, A., Mikami, H., Higaki, J., Ogihara, T. (1999). Angiotensinogen gene-activating elements regulates blood pressure in the brain. Circulation Research 85(2), 257-263.
- 9) Masuo, K., Mikami, H., Ogihara, T. and Tuck, M.L. Weight gain-induced blood pressure elevation. Hypertension (in press).
- 10) 萩原俊男, 森本茂人, 中橋毅, 日和田邦男, 松岡博昭, 松本正幸, 島本和明, 大内尉義, 阿部功, 三上洋 他(1999). 降圧療法下通院中の老年高血圧患者の3年間予後に関する多施設調査-脳心血管疾患および悪性疾患の発症・死亡について-. 日本老年医学会雑誌, 36(5), 342-352.
- 11) 足立登志子, 金谷絵美, 藤田真実, 伊藤美樹子, 千代豪昭, 三上洋. 小児在宅高度医療を行う家族の主観的Well-Beingと家族関係に関する研究. 日本地域看護学会雑誌, (印刷中).
- 12) 藤田真実, 伊藤美樹子, 三上洋, 有馬和代, 志村雅彦. 閉じこもりがちな高齢者を支える住民の力量形成の過程と大学研究者の役割-現場保健婦との実践研究を通して-. 日本地域看護学会誌, (印刷中).
- 13) 三上洋, 萩原俊男(1999). 高齢者の薬物療法とQOL.(第40回日本老年医学会学術集会記録(シンポジウム:高齢者の薬物治療法)). 日本老年医学会雑誌, 36(3), 186-190.
- 14) 三上洋, 萩原俊男(1999). 高齢者の降圧療法とQOL. Geriatric Medicine, 37(4), 569-574.
- 15) 三上洋(1999). 降圧療法受療者における常習欠勤. 血圧, 6(1), 66-68.
- 16) 三上洋(1999). 血圧低下／低血圧：評価と対応の臨床的意義. 血圧, 6(4): 283-287.
- 17) 三上洋, 萩原俊男(1999). 老年者に対する治療の現状-降圧薬-. Geriatric Medicine, 37(9), 1255-1260.
- 18) 三上洋, 萩原俊男(1999). テモカブリルのQOLに対する影響. Progress in Medicine, 19(5), 1144-1149.
- 19) 伊藤美樹子(1999). COEの重要性と起爆的効果. 看護研究, 33(1), 15-21.
- 20) 有馬和代, 伊藤美樹子, 桑島義昭, 藤原淳子, 志村雅彦, 林佑幸, 前野多喜子, 藤田真実, 白井香苗, 三上洋(1999). 「つどいの場」参加者のエンパワメントと支える住民のネットワークづくり. 大阪市立保健所.

2. 単行本(著書, 翻訳本)

- 1) 早川和生監訳(1999). 地域精神保健看護, 医学書院.
- 2) 早川和生, 福地綏逸, 他(1999). 訪問看護マニュアル, 問題点とその対応, 医業ジャーナル社.
- 3) 早川和生監修(1999). 介護福祉士国家試験14科目完全対策, 一橋出版.
- 4) 三上洋(1999). 老年者高血圧治療とQOL. 萩原, 日和田編, 老年者高血圧の治療指針[改訂版](pp. 249-257). 東京, 先

端医学社.

- 5) 萩原俊男, 三上洋(1999). 循環器疾患(高血圧・慢性心不全). 第3部, 第5章, おとしよりとくらす—高齢者介護のてびき (p.276-284). 日本老年医学会編, 東京, 文光堂.
- 6) 三上洋, 萩原俊男(1999). ACE阻害薬とQOL. ACE阻害薬のすべて(第3版)(p.291-300). 東京, 先端医学社.
- 7) 三上洋, 萩原俊男(1999). Ca拮抗薬とQOL. Ca拮抗薬のすべて(第2版)(p.376-385). 東京, 先端医学社.
- 8) 三上洋(1999). 高齢者におけるカルシウム拮抗薬の副作用. 藤田敏郎編, 高血圧診療Q&A(p.104-105). 東京, 日本医学出版.
- 9) 三上洋, 萩原俊男(1999). 高血圧における代謝異常合併—疫学的成績からみた重要性—. 築山, 萩原, 日和田編, 代謝面からみた高血圧と標的臓器障害の予防と管理(p.14-26). 東京, 先端医学社.
- 10) 三上洋(1999). 6. 降圧療法とQOL, 7. 降圧療法のコンプライアンスを維持するために. 榎垣, 小原編, 高血圧治療ガイドブック(p.84-87).

3. 学会発表(抄録, Proceeding)

- 1) 早川和生(1999). 加齢現象と双生児研究. 東京:日本双生児研究会.
- 2) 早川和生(1999). 多胎児を産み育てる家族へのサポートを考える. 大分: 第58回日本公衆衛生学会.
- 3) 石橋真理子, 岸田理恵, 早川和生(1999). 介護意識に関する奈良県下2自治体の比較検討. 大分: 第58回日本公衆衛生学会.
- 4) 岸田理恵, 石橋真理子, 早川和生(1999). 高齢者のヘルスニーズと意識に関与する諸要因の分析. 大阪府下A市の場合, 第58回日本公衆衛生学会.
- 5) 加藤憲司, 早川和生, 清水忠彦(1999). 成人双生児を対象とした知的老化度と痴呆に関与する健康指標の研究. 大分: 第58回日本公衆衛生学会.
- 6) 松田理恵, 早川和生(1999). 中小企業における海外派遣労働者の心身のストレスについて. 大分: 第58回日本公衆衛生学会.
- 7) 岸田理恵, 石橋真理子, 早川和生(1999). 大都市近郊H市における高齢者介護の住民ニーズの時系列的変動の分析. 山梨: 第2回日本地域看護学会.
- 8) 石橋真理子, 岸田理恵, 早川和生(1999). 地域特性による介護ニーズ・介護意識の違い—奈良県下K市・O町の比較調査研究—. 山梨: 第2回日本地域看護学会.
- 9) 草野恵美子, 依藤史郎, 早川和生(1999). 臥位における体位変換時の側腹部皮膚血流動態. 浜松: 第25回日本看護研究学会.
- 10) 白井文恵, 土井修平, 川口真紀子, 村上明日香, 土肥義胤(1999). 肺球菌の感染のメカニズムについて. 東京: 日本細菌学雑誌, 54(1), 89.
- 11) 川口真紀子, 白井文恵, 土肥義胤(1999). 腎透析患者の易感染性の原因の追求. 浜松: 第25回日本看護研究学会雑誌, 22(3), 143.
- 12) Shirai, F., Doi, S., Kawaguchi, M., Murakami, A., Sogi, A. and Dohi, Y.(1999). Regulation on enterococcal infections to non-professional phagocytes. Copenhagen: Benzon symposium No.46 Molecular mechanisms of innate immunity, p13.
- 13) 川口真紀子, 白井文恵, 土肥義胤(1999). 母乳中に混入した細菌の増減. 横浜: 母性衛生, 40(3), 174.
- 14) 川口真紀子, 白井文恵, 土肥義胤(1999). 腎透析患者の末梢血管中球のNO産生能の低下. 大阪: 第52回日本細菌学会関西支部総会, p13.
- 15) 土肥義胤, 白井文恵(1999). 肺球菌による細胞内感染の様相. 大阪: 全国乳酸菌研究会, 399-405.
- 16) Masuo, K., Mikami, H., Ogihara, T., Tuck, ML. (1999).

Nonesterified fatty acids and triglyceride levels are the predictors of blood pressure elevation. New Orleans: The 48th Annual Scientific Session, American College of Cardiology, March 9.

- 17) Masuo, K., Mikami, H., Ogihara, T., Tuck, ML. (1999). Obesity, hypertension and weight gain-induced blood pressure elevation New York: The 14th Scientific Meeting of the American Society of Hypertension, May 21.
- 18) Masuo, K., Mikami, H., Ogihara, T., Tuck, ML. (1999). Changes in plasma leptin, insulin and sympathetic activity during long term treatments with ACE-inhibitor and calcium channel blocker in obese hypertensives. Milan, Italy: The 9th European Meeting on Hypertension, June 11.
- 19) Masuo, K., Mikami, H., Ogihara, T., Tuck, ML. (1999). Sympathetic hyperactivity stimulated by hyperleptinemia contributes BP elevation in young and elderly obese hypertensives. Milan, Italy: The 9th European Meeting on Hypertension, June 11.
- 20) Masuo, K., Mikami, H., Ogihara, T., Tuck, ML. (1999). Calcium antagonist and weight reduction in obese hypertensives.. Amsterdam, the Netherlands: The 4th European Meeting on Calcium Channel Blockers, Oct 28.
- 21) 有馬和代, 志村雅彦, 桑島義昭, 藤原淳子, 伊藤美樹子, 藤田真実, 三上洋(1999). 「つどいの場」参加者のエンパワメントと支える住民のネットワークづくり(第1報)—参加型行動研究を通しての参加者の主体化のプロセスー. 第58回日本公衆衛生学会総会抄録集, 46(10), 579.
- 22) 藤田真実, 伊藤美樹子, 三上洋, 有馬和代, 志村雅彦, 桑島義昭, 藤原淳子(1999). 「つどいの場」参加者のエンパワメントと支える住民のネットワークづくり(第2報)—地域在住高齢者のネットワークの現状ー. 第58回日本公衆衛生学会総会抄録集, 46(10), 579.
- 23) 舛尾和子, 三上洋, 萩原俊男(1999). 体重増加に伴う血圧上昇には血漿レプチニン値増加に伴う交感神経系, RA系の過剰反応が早期より関与. 東京: 第63回日本循環器学会学術集会.
- 24) 舛尾和子, 三上洋, 萩原俊男(1999). 肥満高血圧患者の変換酵素阻害薬, カルシウム拮抗薬による長期治療時の血漿レプチニン値, インスリン値, 交感神経活動性の変化. 東京: 第63回日本循環器学会学術集会.
- 25) 舛尾和子, 三上洋, 萩原俊男(1999). 肥満高血圧者の体重減少時の降圧機序は若年者と老年者で異なる. 京都: 第41回日本老年医学会学術集会.
- 26) 舛尾和子, 三上洋, 萩原俊男(1999). 肥満に伴う血圧上昇には肥満遺伝因子が関与する. 香川: 第22回日本高血圧学会総会.
- 27) 舛尾和子, 三上洋, 萩原俊男(1999). 肥満遺伝因子と高血圧遺伝因子の血圧値への関与. 東京: 第11回血圧管理研究会.
- 28) 白井香苗, 伊藤美樹子, 藤田真実, 有本千佐, 三上洋(1999). 地域在住高齢者の主観的well-beingと外出行動の多様性. 大阪: 第8回日本健康教育学会.
- 29) 伊藤美樹子, 熊谷香代子, 山崎喜比古, 熊谷たまき, 柳原一恵, 松友庸子, 桢川文子, 山田寿子(1999). 点頭てんかん診断後20余年にわたる子どもと家族の生活予後に関する調査研究(第1報)疾病・障害の経過. 仙台: 第33回日本てんかん学会.
- 30) 熊谷たまき, 熊谷香代子, 山崎喜比古, 伊藤美樹子, 柳原一恵, 松友庸子, 桢川文子, 山田寿子(1999). 点頭てんかん診断後20余年にわたる子どもと家族の生活予後に関する調査研究(第2報)就学・就労・生活の場とその変化. 仙台: 第33回日本てんかん学会.
- 31) 熊谷香代子, 伊藤美樹子, 山崎喜比古, 熊谷たまき, 柳原一恵, 松友庸子, 桢川文子, 山田寿子(1999). 点頭てんかん診断後20余年にわたる子どもと家族の生活予後に関する調査研

- 究(第3報)介護家族の活動と意識の変化. 仙台: 第33回日本てんかん学会.
- 32) 横原一恵, 伊藤美樹子, 熊谷香代子, 山崎喜比古, 熊谷たまき, 松友庸子, 桐川文子, 山田寿子(1999). 点頭てんかん診断後20余年にわたる子どもと家族の生活予後に関する調査研究(第4報)診断・治療・療育へのアクセシビリティの変化. 仙台: 第33回日本てんかん学会.

4. 研究助成

- 1) 早川和生(代表)(1999). 双子老人の比較からみた加齢現象に関与する生活環境要因の研究. 文部省科学研究費, 基盤(B).
- 2) 早川和生(代表)(1999). 乳幼児期におけるTwin-talk(宇宙語)現象の発生機序とファミリーケアの研究. 文部省科学研究費(萌芽的研究).
- 3) 早川和生(代表)(1999). 低出生体重児・双胎・多胎児の妊娠, 出産, 育児の支援に関する研究. 厚生省厚生科学研究費.
- 4) 早川和生(代表)(1999). 双子老人2,500組の比較からみた生活行動・ライフスタイルが精神老化に関与する影響の研究. ユニバーチ財團研究助成.
- 5) 土肥義胤(1999). 抗結核キラーTリンパ球とりコンビナントBCG-DNAワクチンの開発による新しい予防・診断・治療法. 平成11年度厚生科学研究費補助金(新興・再興感染症事業).
- 6) 土肥義胤(1999). 排卵期に誘発される細胞感染防御因子の追及. 平成11年度腸管微生物研究会助成金.
- 7) 三上洋(代表), 楽木宏実, 守口篤(1999). 脳内レニン・アンジオテンシン系亢進高血圧モデルにおける神経伝達物質の動態解明. 文部省科学研究費, 基盤研究(C)一般.
- 8) 白井文惠(1999). 糖尿病患者及び腎不全患者の易感染状態の原因追求と感染予防対策の検討. 文部省科学研究費, 奨励研究(A).
- 9) 伊藤美樹子(1999). てんかん児の親の病気観・人生観と児への生活調整に関する研究. 文部省科学研究費, 奨励研究(A).
- 10) 松田理恵(1999). 中小企業に働く海外派遣労働者の心身のストレスとそれに対する保健指導に関する研究. 文部省科学研究費, 奨励研究(A).

病院看護部

誌上発表

- 1) 今井美貴(1999). はじめての脳死・臓器移植 その時看護は. 看護学雑誌, JIN, 10.
- 2) 今井美貴, 本井文子, 萩原さがみ(1999). 心臓移植の術前・術後看護(一般病棟). ハートナーシング, 12.
- 3) 山下和美, 河野総江(1999). 心臓移植の術前術後看護(ICU). ハートナーシング, 12.
- 4) 田墨恵子(1999). 麻痺を持つ患者の心のケアと日常生活援助. こころの看護学, 3(3), 217-221.
- 5) 浪下和子, 小堀美恵子(1999). 食道・胃の内視鏡外科看護. 内視鏡外科ナーシングプラクティス, 138-145.
- 6) 杉本信子, 阿曾洋子, 上原ます子, 八田かずよ(1999). 條創の予防・治療・看護・介護の実態とケアの向上に関する調査研究. 第4回「地域保健福祉研究助成」報告集, 2月号, 267-272.
- 7) 山本裕子, 植園法子, 國寛子(1999). ピン刺入患者の看護. 整形外科看護, 4(10), 17-20.
- 8) 原口範子(1999). 思春期外来の初期ケア—情報収集と看護面談—. 思春期学, 17(2), 230-239.
- 9) 鎌谷佳子(1999). 院内感染対策の情報整理(17)リンクナースの役割. L'age, 240, 3.

- 10) 川上由香, 末澤廣子(1999). 糖尿病教室におけるグループディスカッションの役割機能の検討. 日本糖尿病教育看護学会誌, 3.
- 11) 鹿島泰子(1999). 頭部外傷の看護. プレインナーシング, 15(10).
- 12) 塙岡佳子, 有田聰子, 重富智恵, 内園英子, 泉玲子, 萩原さがみ(1999). 無菌病室における測定部の消毒薬の検討—0.5%グルコン酸クロルヘキシジンと80%エタノールの比較—. 第21回日本造血細胞移植学会看護研究集録集.
- 13) 清水潤三, 藤本春美, 堂野恵三, 左近賢人, 門田守人(1999). 消化器の検査のすべて—検査の実際と看護—. 消化器外科学ナーシング秋季増刊号.
- 14) 東村昌代, 藤本春美, 藤野博美, 辻聰子, 大野ゆう子(1999). 甲状腺疾患の術後創における患者のニーズに応じた創傷管理. 大阪大学看護学雑誌, 15(1), 48-55.

学会発表

- 1) 河野総江, 山下悦子, 田墨恵子, 柳川千里, 谷浦葉子, 河村公子, 安藤昌代, 森田輝代, 米谷良美, 藤本春美, 中尾由紀子, 福岡富子(1999). 看護記録の質的な側面に焦点を当てた評価. 第5回看護診断学会.
- 2) 青木越子, 西田悦子, 藤本春美, 辻中利政, 館村卓, 野原幹司, 藤田義典, 安井洋子, 熊代千鶴恵(1999). 食道癌術後ににおけるチームアプローチの重要性. 第36回日本外科代謝栄養学会.
- 3) 館村卓, 野原幹司, 藤田義典, 辻中利政, 青木越子, 西田悦子, 藤本春美, 安井洋子, 熊代千鶴恵(1999). 食道癌手術例に対する摂食チームアプローチにおける歯科口腔医療者の役割と効果. 第5回日本摂食嚥下リハビリテーション学会.
- 4) 八田かずよ, 阿曾洋子, 上原ます子, 杉本信子, 高田喜代子(1999). 病棟における條創の保有状況と実施ケアからみた看護体系の問題点と課題. 第30回日本看護学会看護管理.
- 5) 上原ますこ, 阿曾洋子, 杉本宣子, 八田かずよ, 高田喜代子(1999). 在宅における條創予防の現状と看護の課題. 第30回日本看護学会地域看護.
- 6) 今井美貴, 本井文子, 萩原さがみ(1999). 臓器移植法施行後初めての心臓移植患者の看護を経験して. 第47回日本心臓病学会学術集会.
- 7) 東村昌代, 藤野博美, 藤本春美, 辻聰子, 大野ゆう子, 芝英一(1999). 甲状腺疾患の術後創における創傷管理の評価. 第32回甲状腺外科学研究会.
- 8) 神谷千鶴, 今井雪香, 江川隆子(1999). 慢性維持透析患者のセルフエフィカシーの特徴. 第2回腎不全看護学会.
- 9) 藤川博子, 田中郁江, 三浦裕子, 村松京子(1999). 酸化ヒレンガス滅菌から低温プラズマ滅菌への移行を試みて. 第21回日本手術医学学会.
- 10) 宝満朝子, 木下和香, 松崎純子(1999). 外科手術患者用パンフレットに関するアンケート調査について. 第21回日本手術医学学会.
- 11) 宝満朝子, 木下和香, 松崎純子(1999). 外科手術患者用パンフレットに関するアンケート調査について. 日本手術看護学会秋のセミナー.
- 12) 水谷綾子(1999). コンテナ導入の現状と問題点. 第21回日本手術医学学会.
- 13) 水谷綾子(1999). 脳死下心臓移植の経験を通して—看護婦の立場から—. 第21回日本手術医学学会.
- 14) 水谷綾子(1999). 脳死下心臓移植の経験を通して—看護婦の立場から—. 第13回日本手術看護学会.
- 15) 藤村律子, 岡本鈴江, 市場ゆかり, 小野久美, 須藤昌子, 河

- 野総江(1999). 開心術後患者における褥創発生要因の調査, 第26回日本集中治療医学会.
- 16) 岩崎朋之, 河野総江(1999). 生体部分移植術後患者の看護展開, 第26回日本集中治療医学会.
- 17) 青木越子, 藤本春美, 辻中利政, 門田守人, 館村卓, 野原幹司, 藤田義典, 安井洋子, 熊代千鶴恵(1999). 食道癌術後における食事の工夫とチームアプローチの重要性, 第14回経腸栄養学会.
- 18) 上田美加, 杉本方代, 西村明子(1999). 術後の疼痛コントロール, 第2回大阪癌とQOL研究会.
- 19) 小林佐和子, 岡野静子, 東村昌代, 米谷良美(1999). 「隔離」におけるPOMSを用いた気分の経時的变化, 第11回大阪府看護協会看護研究会.
- 20) 村田千枝, 中山正俊, 浦田桜(1999). 脳低体温療法における冷却用ブランケット水温の比較検討, 第1回日本救急看護学会.
- 21) 年梅英子, 中尾由紀子, 服部由子他支部役員(1999). 診療記録の開示の現状、諸問題、及び看護職の考え方に関する調査報告, 第11回大阪府看護協会看護研究会.

院内看護研究

- 1) 谷内薰, 青山陽子, 小川由佳, 野瀬恵美子, 福本のりえ(1999.1). ターミナル期の患児に付き添う母親への看護を考える—患児死亡後に行った母親との面接を通して—(小児科).
- 2) 川越敦子, 岡野静子, 小林佐和子(1999.1). 「隔離」におけるPOMSを用いた気分の経時的变化(血液内科).
- 3) 有田聰子, 増岡佳子, 重富智恵, 内園英子(1999.2). 無菌室における足底部の消毒薬の検討—0.5%グルコン酸クロルヘキシジンと80%エタノールの比較—(特殊診断治療部).
- 4) 中岡亜希子, 高橋水無子, 平尾幸美(1999.2). 入院中の乳癌患者における交流の実状—安心・不安への影響とその分析—(腫瘍外科).
- 5) 中村幸代, 渡辺澄子, 柳川千里(1999.6). 心臓カテーテル検査を受ける患者の不安と看護婦の認識の相違について(第一内科).
- 6) 菅生綾子, 三宮信江, 中原藤子, 山本優子, 藤田洋子(1999.6). 外来患者の服薬状況の実態調査(外来).
- 7) 清野恭子, 高山美保, 水江尚代(1999.7). 看護計画開示を試みて—看護婦によるインフォームドコンセントを考える—(第二内科).
- 8) 木下和香, 松崎純子, 宝満朝子(1999.7). 外来手術を受ける患者用パンフレット「手術室へのご案内」に関するアンケート調査について(手術部).
- 9) 深江弘子, 山下園美, 山本千賀子(1999.8). 救急患者家族の急性期における看護記録の検討(特殊救急部).
- 10) 松岡明子, 青木和子, 野口成子(1999.8). 神經難病患者の退院指導について—退院時サマリーと患者アンケートから—(神經内科).
- 11) 中澤恭子, 渕井恵美, 下塙見三津子(1999.9). テンプレートガイド針刺入による組織内照射前の不安の軽減を試みて—オリエンテーションVTRの導入—(放射線科).
- 12) 山迫美鈴, 和田梨詠子, 村上あつみ, 土井トクエ(1999.9). 股関節手術患者の回復期における不安要因の検討(整形外科)
- 13) 萩原温子, 東田真由美, 深田亜紀子(1999.10). 末梢血幹細胞移植を受ける患者の看護—易感染状態における吸入・含嗽の進め方—(第三内科).
- 14) 志摩輝美, 曽根恵美子, 岡田多津枝(1999.10). 分娩期における助産婦の援助についての検討(分娩育児部).
- 15) 宇野宏美, 江見佳子, 三家永里子, 能勢法子, 三木佐登美(1999.11). 排気処置としてホットハウストリサイクルウォーマーを使用した温罨法の比較検討(第二外科).

- 16) 河西悦子, 斎藤かつら, 小林恭子, 加納葉子(1999.11). 術後の腸蠕動回復に対するガム咀嚼の有効性について(第一外科).
- 17) 小林真弓, 森裕美, 笠島陽子(1999.12). 安静臥床中で発声できない患者のコミュニケーション方法の一考察—固定式筆記板を作成して—(耳鼻咽喉科).
- 18) 井上有美子, 小濱敬子, 西田幸子, 池永順子, 小山田まり子(1999.12). 精神分裂症患者への10cmテープを用いた病識調査—看護者の自立度査定との関連性—(神経科精神科).